

編集後記

個人的には、今年度もあまりお役に立つことができませんでしたが、女性学インスティテュートとしては、学生懸賞論文の最優秀論文賞が久しぶりに出るなど、実りの多い年であったかとも思います。来年度からは女性学分野のリベラルアーツ&サイエンス・プログラムも始まりますし、これからも実りの多い活動を続けられればと思います。(K.M.)

今年から編集委員になりました。最初は門外漢なのに役目が務まるかと心配でした。しかし、今では「女性学」とは学問的な「専門分野」ではなく、生物的、社会的、言語的活動において「女性である」こと（あるいは「女性でないこと」）がどのように関わっているかについての「問い」のようなものではないか、と考えています。(M.T.)

編集委員の皆さまの足を引っ張ることのみ多い1年であったように反省します。にもかかわらず、投稿を寄せてくださった先生方のおかげで、『女性学評論』はかなり充実度の高いものができたのではないのでしょうか。来年度から新たなプログラムもスタートします。インスティテュートと本誌のさらなる発展を祈念します。(M.W.)

今回の特集は「性を売る女・買う男」である。売買春についてキリスト教学、歴史学、法律学そして社会学からの論文を掲載することができた。様々な専門分野の研究者からなる本学ならではの学際的考察となったのではないと思う。来年度から女性学分野のリベラルアーツ&サイエンス・プログラムも始まる。女性学の益々の発展を期待する。(M.Y.)
